

# 研修視察報告書

この度、岩手県岩手郡雫石町の視察並びに埼玉県鴻巣市（株）会議録センター講義概要について、別紙のとおりご報告いたします。

資料その他については、事務局に保管してありますので、ご高覧ください。

平成30年3月28日

## 広報広聴委員会広報分科会

分科会長 奥山 豊和

副分科会長 山形 健二

委員 加藤 勝義

委員 播磨 博一

委員 土田百合子

横手市議会議長 齋藤 光司 様

# 平成 29 年度広報広聴委員会広報分科会 研修視察報告書

## ◆岩手県岩手郡雫石町議会 (1 月 30 日訪問)

### 《町の概要》

雫石町は、北東北地方の拠点都市である盛岡市西方約 16km に位置し、総面積は 608.82 k m<sup>2</sup>である。明治 22 年の町村制施行により、「旧雫石村」が成立し、昭和 15 年には町制施行により「雫石町」となった。昭和 30 年 4 月 1 日には、旧雫石町、御所村、西山村、御明神村の 4 町村が合併し現在に至る。

豊かな自然と共生した快適な生活環境の確保を図りながら、農業・観光を中心とした魅力ある産業の創出と創造性豊かな人づくり、町の位置づけの優位性を活かした交流・連携を進め、自立する持続可能な「次世代のまちづくり」を推進している。

### 《調査事項》

#### 1. 議会だよりの編集について

### 《視察の概要》

■説 明 雫石町議会広聴広報常任委員会 山崎 るみ子委員長 他委員 6 名

#### ①リニューアルの経緯について

- 数字が書きやすい、読みやすいという理由により平成 16 年 7 月第 50 号から横組みを採用した。
- 町民から読みづらいという話は聞いていない。当初は、紙面クリニックにおいてもいい評価を受けていなかったが、今は認められつつあるようで、横組みに変える議会も増えてきている。秋田県内では八郎潟村議会が採用している。

#### ②編集体制と役割分担について

- 一般質問は、質問を行った議員が執筆し、他の執筆については編集委員会で割り当て、原稿を作成している。
- 編集会議に印刷業者も同席し、編集指示を伝えたり、助言をもらう。

#### ③紙面づくりで工夫している点について

- 親しみやすく、読みやすいものにするため、専門用語を排除している。
- 住民の声を反映させるため、声（議会へのひとこと）として掲載している。
- 追跡レポートや特集記事など話題性あるものを掲載している。
- 行政広報誌との重複内容を避ける。
- 関連写真を掲載している。
- 80 号から、一般質問コーナーに議員の「チョットひとりごと」という吹き出しを追加している。
- 80 号から、議員ごとの採決結果を公表している。

#### ④議会だよりの配布方法

- ・印刷部数は5,700部であり、行政区の区長を通じ全世帯に配付している。また、在京雫石町友会役員等に配付している。事業所への配付はしていない。

#### ⑤議会での委員会の位置づけ

- ・広報広聴常任委員会とし、7人で構成。任期は申し合わせにより2年としているが、改選後も半分以上は留任するようしており、紙面の安定感を保持している。

#### ⑥その他

- ・表紙写真はテーマを決めて掲載している。現在は、まちの笑顔シリーズ「スポーツ少年団編」。その前は、「放課後児童クラブ編」としていた。撮影はセミプロカメラマンの町民に依頼し、無報酬で引き受けてもらっている。シリーズ化することにより、写真が決まりやすい。
- ・一般質問の議員写真は、質問終了後に左右のアングル撮影をしている。
- ・「ふるさとへのたより」コーナーは、在京町友会のメンバーが順番を決めて執筆している。



### 《委員の所感》

#### ■奥山 豊和分科会長

雫石町議会では、手に取ってもらうための編集方針として、デザイン・表現力の向上、第三者の評価、そして専門的研修の3つを常に心がけているようだ。行政も議会の広報も縦書きが一般的な中で、初めて見る横書きの議会だよりは、確かに数字やアルファベットの記載は抜群に読みやすく感じた。

かつてグランプリを獲ったことのあるという表紙の写真について。現在は町内のスポーツ少年団、その前は放課後児童クラブを順番に紹介しており、「町の笑顔シリーズ」というコンセプトの下、元気な町民の皆様の姿が強烈なインパクトを放っている。

また、「議会へのひとこと」ということで、毎回3名の町民の方々の声を顔写真入りで紹介し、在京雫石町友会（いわゆるふるさと会）の方々のお便りコーナー。そして「雫石町へようこそ」ということで、ご縁があって町外から迎えられた「お嬢さん・お嫁さん」をご家族とともにコメント付きでお知らせしているなど、それぞ

れの議員が地域に入って行って町民と共に広報を作り上げようとするその姿勢、意識の高さに大いに刺激を受けた。

「双方向」によって議会だよりを作り上げていくこと。その積み重ねこそが、開かれた議会、身近な議会、信頼される議会をつくっていくことに他ならず、議員としてそういう気持ちを強く持ち続けることが、住民にとって、議会の扉を開くきっかけとなるのだと感じた。

#### ■山形 健二 副分科会長

雫石町議会の議会だよりに取り組む姿勢には本気が感じられた。

議会だよりを開けば、見やすいレイアウト。議員の写真も動きがあり、面白い。横手市とは違い、広報広聴委員会ではなく広報広聴常任委員会としており、議会だよりのレベルを落とさないようにメンバーも基本的に入れ替わりのないようになっているとのことだった。

議会だよりを制作する業者との兼ね合いもあるだろうが、横手市の広報広聴委員会でも参考にして取り組んでいける部分はたくさんあり、今後の紙面作りに活かしていきたい。

#### ■加藤 勝義 委員

「しずくいし議会だより」の特徴は、横組みレイアウトである事である。実際ページを見てみると違和感はない。確かに数字表記は横組みが適している。近年横書きが増えてきている中でも気にならない。しかし、横組みでも縦組みでも大切な事は、基本的な全体レイアウトや、ページをめくる際の視覚的、興味性をいかに市民（読者）に伝える事が基本となる例と思う。

また、紙面の写真の使い方が変化に富んでおり、ワンパターンでは無い事が良い。しかし、写真理め込みに変化をつける際は、全体的なレイアウトが崩れないように、或いは見る方たちが疲れないようにすることはプロのデザイナーの力を借りることが必要である。

まとめ：全体的に見やすい・読みやすい事と、基本的に市民が求めている情報を意識して、編集している事は特筆すべき事である。また編集委員会開催が3回であることについて、横手との違いに気が付いた。多いか少ないかではないが、早速、編集会議を少なくして試みて実施していることはこの視察の成果である。

#### ■播磨 博一 委員

我々の視察に対して、広報広聴常任委員会全体での丁寧な対応はこれまで経験がなかったので驚いた。紙面づくりに関しては編集方針がしっかりしていること、表紙写真がシリーズ化されていることなどに特徴があったと思う。

また、いかに手に取って読んでもらえるかという点で、話題性のあるものは追跡レポートや特集記事を掲載したり、一般質問の記事に議員のひとりごとを吹き出し

で紹介したり工夫が感じられた。編集会議に印刷業者が同席し、意見の交換を行うこともいいことだと思った。

今後の課題として、編集技術を高めるため、第三者からの評価の必要性と、専門的な研修の機会を求められるとしており、全国町村議会議長会主催の研修会への参加を行っているようだった。また、住民との「パイプ役」にふさわしい「議会だより」として、企画記事の充実をあげていた。町村議会報のレベルの高さを感じ、刺激になる研修だった。

## ■土田 百合子 委員

編集体制が常任委員会であることから、7人全員揃っての対応には驚いた。また編集方針が明確であることや、印刷業者が同席するなど「しずくいし議会だより」からは学ぶべきことが数多くあった。

## ◆「講義で学ぶ議会だより編集の基本」(1月31日訪問) 埼玉県鴻巣市 (株) 会議録センター研修室

### 1. 「あなたと市議会」第51号(H29.10.15号)紙面クリニック 営業企画部編集課 早川 人美 氏

#### 【表紙】

- ・タイトル「あなたと市議会」は市民と議会双方向のネーミングで良い。
- ・全面写真はインパクトが大きく、写真が活きる。
- ・できるだけ人が写っているものが手に取ってもらえる。
- ・目次は本数を絞ってみる、文字の太さ・色を変えてみる。  
⇒ 写真が活きる。文字が大きくできる。(メリハリが出る)
- ・表紙の効果を狙い、敢えて目次を入れない議会だよりもある。

#### 【定例会の概要】

- ・インパクトのある大見出しになるよう工夫してはどうか。
- ・目玉記事をどこに読者の目を持っていきたいかの意識を。
- ・小見出しと文字の大きさの違い(ジャンプ率)をつけて惹きつける。
- ・賛否一覧表は、色の使い方と網掛けで、見やすく、分かりやすくなる。
- ・小見出しに結果を、議案名は小さく入れるだけで印象がだいぶ変わる。
- ・写真のキャプションが良い。
- ・特別委員会報告は改行がないため、読みにくく、疲れる。  
小見出しと改行でホワイトスペース(余白)を作ると読みやすくなる。
- ・小さい写真がもう1枚あればなお良い。

### 【代表質問・一般質問】

- ・一般質問4点セット ①問見出し ②答え見出し ③関連写真 ④議員顔写真
- ・リード文に代表質問と一般質問の説明があれば親切。
- ・代表質問をインパクトある見出しに。
- ・一般質問の見出しはバリエーション豊かでない。
- ・見出しの字数…最適は12～18文字。ルールは必要ないか。
- ・写真を対角線上に配置し、片方が重ならないように。
- ・議員写真は正面写真がいいか、質問している写真がいいか。
- ・質問文の青色⇒もう少し黒が多い青の方が見やすいのではないか。
- ・文字のジャンプ率、ゴシックと明朝、問いに網掛けする方法もある。

### 【常任委員会報告】

- ・タイトルより先に委員会名に目がいく。どこを先に見てもらいたいのかを考えたレイアウトに。
- ・内容の見出しが大事。
- ・QRコードがどのページに繋がるのか説明があれば読者に優しいものになる。
- ・管内視察の写真は臨場感があって良い。

### 【行政視察報告】

- ・ただの文章より、目的・取り組み・まとめに分けたレイアウトに。

### 【議会報告会】

- ・タイトルについて、6文字以上の漢字の羅列は読みづらく、読みたくなくなる。  
例えば、「16会場で議会報告会・意見交換会を開催」  
⇒ 例1)「市民参加の議会にさらに前進！活かします、336人の想い」  
⇒ 例2)「話して・聴いて・考えた 議会の今と、市のこれから」

### 【市議会のあゆみ】

- ・字数が多いので、項目を絞ってみる。
- ・市民に伝えたい、ココというところの文字を大きくする。

### 【通常号の裏表紙】

- ・読まれる率が高いページ。いかに市民との双方向にするか。
- ・議会の主な動き…実際何をやっているかが見えてこない。
- ・傍聴案内や議会啓発記事も入れてはどうか。
- ・QRコードの活用も大事

## 【編集会議】

- 出来るだけ早く、レイアウトしたゲラをチェックした方がいいのではないかな。
- ゲラの読み合わせは大事（音と文字からのチェック）。
- 印刷業者の同席が望ましい。
- 編集会議の校正時間は十分かな。

## 【共通】

- 議会HPとの連動で相乗効果を狙う。
- 発行日は、これまでどおりでよいか？それとも充実させてからか？  
3月定例会後なら、4/15か、5/1か、5/15か。
- 目が行く順序は、①写真 ⇒ ②見出し ⇒ ③本文
- 用語解説、HPとの連動で情報補完。
- できるだけ人を写す 1Pに最低2枚 大小の写真など。
- 写真の効果的なトリミング、角・角丸・丸番などを活かす。
- 見出しと本文のジャンプ率を上げて、文字を少なく。
- 書体、文字の大きさ、太さ、文字間、行間に工夫を。
- 文字フォント…読みづらくはないが、もう一回り大きくてもいいかもしれない。
- 余白を考えた文字数の再考は必要ないかな。
- 整列、対称、シンメトリーを活かしたレイアウトに。
- 文語体（ですます調）、口語体（である調）の使い分けを。
- ルール表（言葉の置き換え表）を作成し、議員に渡しておく手法もある。
- 表紙の公募をしても応募が少なく悩んでいる議会は多い。

## 2. 伝わる原稿のまとめ方

営業企画部編集課 杉本 誠一 氏

### (1) 基本と実践

- 「伝える」から「伝わる」内容に。
- 「誰に」「何を」伝える（伝わる）のか。読み手を意識し、目的を明確に。
- 読み手の立場に立った文章を。読み手が理解できて、読んで疲れない。
- 「読み手」とは、議会だよりの読者層は幅広いすべての方に理解できるか。
- 伝わる原稿作成のための5つのポイント
  - ① 問答のバランス  
質問と答弁のバランスは、同じ割合が望ましい。
  - ② 読者目線・簡潔明瞭に  
遡及的⇒さかのぼって、4次総⇒第4次総合計画、昨年度⇒平成28年度
  - ③ 適切な「て・に・を・は」  
て・に・を・は（助詞）が適切かどうかで、読みやすさは変わる。
  - ④ 句読点とセンテンス



- 句点「。」読点「、」の入れ方は読みやすさに影響する。
  - 「、」の位置によって意味が変わる。
  - 「、」の目安は 20～30 字以内に 1 カ所。
  - 「。」の目安は 40～50 字以内に 1 カ所。
- ⑤ 読みやすさのチェック
- 主語・述語/接続詞/語順
  - 主語と述語はできるだけ近づけて対応させる。

## (2) 原稿の推敲

推敲とは、最適な字句や表現を求め、考え・練り上げること

⇒ 文章を作成した後、読み直して文章の精度を高めていく作業

### ○推敲ポイント1

①語順 ②主語・述語・接続詞 ③句読点・改行 ④文体・表記 ⑤書き言葉

### ○推敲ポイント2

①簡潔にまとまっているか ②専門用語の置き換え ③わかりにくい略語  
④伝えたいことが伝わるか ⑤誤解を招かないか

### ○推敲ポイント3

①追加・削除は ②整合性は ③誤りはないか ④文章の流れは

## (3) 写真配置とトリミング効果

- 写真は記事と一心同体に
- 写真の大きさに変化をつけてメリハリを出す。
- 撮影時のポイント 3方向から撮ると調整がきく。
- トリミング…画像の一部を切り出して構図を整えること。「主役」をはっきりさせる。
- キャプションの存在感…写真の説明、本文の補完役、興味を持たせる仕掛け。





## 《委員の所感》

### ■奥山 豊和分科会長

「もっと読まれる、中身が伝わる議会だよりへ」をテーマに研修を行った。課題は、いかにして内容にメリハリをつけるかである。私たちのこれまでのリニューアルでは、字数を減らして文字を大きくするという取り組みをしてきたものの、全体の中でまずはどのページを読んでほしいのか、一番目立させたい内容は何か、安定したレイアウトではあるが、どこを一番知ってほしいのかというのが伝わりにくいというご指摘を頂いた。

一番のポイントは、伝わる原稿のまとめ方である。これまでも議会用語など難しい言い回しは避けて注釈をつけるなど、分かりやすい内容に心がけてきた。議会だよりに書かれている中身をしっかりと読み込んでいただければ、議会で何が決まったのか理解できるのかもしれないが、それではメリハリがなく、議会が行っている情報発信が市民に理解されているかという原点に立ち返らなければならない。表紙を工夫するというのは、手に取ってもらうというハードルを下げするためである。常に読み手の立場を意識し、この記事の中で何を一番に伝えたいのか、知ってもらいたいことを明確にした上で、どのように伝えるかを工夫していかなければならない。

「伝える」から「伝わる」議会だよりへ。ぜひともこれからの「あなたと市議会」にご注目いただきたいものである。

### ■山形 健二 委員

同じ内容が書かれていても、レイアウト、写真、見出し、文字の使い方を工夫することで読みたくなる、読みやすい記事にすることができるということを学んだ。

実際に横手市の議会だよりの内容を例に、見出しを変えてより目を引く記事にしたり、他の市町村の議会だよりで使われている手法を紹介してもらったりと大変勉強になった。

しかし、この学んだことを活かした議会だよりを作るには今までのやり方を大幅に変えなくてはならない。他の市町村の素晴らしい議会だよりを見てしまっただけでは、横手市の議会だよりも素晴らしくしたいと思うわけがある。それには制作業者がどこまでやってくれるかもあるが、我々広報委員がどこまでやれるかが課題だろう。

### ■加藤 勝義 委員

「あなたと市議会」の紙面クリニックでは、表紙目次本数を絞る、本文と見出しの文字の大きさ、紙面へのアイキャッチ、写真の切り抜きの不自然さ、見出しの文字数、ホワイトスペースなど、のアドバイスがあった。なるほどと納得することが多かった。早速今紙面に少しずつ取り入れて編集していることは、「あなたと市議会」の紙面が横手ならではの個性を出すための基本的な編集と捉え、この会議録センターでの研修が大いに役立ったと思う。

## ■播磨 博一 委員

朝から夕方まで、みっちり講義を受けた。

午前、実際の横手市議会報をもとに紙面クリニックを受けた。表紙から始まり、最終ページまで丁寧にクリニックしてもらった。褒められた部分もあったが、それ以上に多くの改善点の指摘を受けた。すべてがすぐにできるとは思わないが、まずは出来るところから始めよう。

午後は、原稿のまとめ方ということで、フォントの使い方、大きさ、行間の取り方や、レイアウトの取り方、もらった原稿の編集の仕方など、読み手を意識した紙面に仕上げるための技術的な方法について学んだ。あわせて、広報では重要な写真の使い方の話しもあった。1日の講習で工夫次第で横手市議会報も大きく変わるヒントをたくさん教えられた。広報委員には任期中にこのような研修を受講することを勧めます。

## ■土田 百合子 委員

よこて市議会だより「あなたと市議会」が、初めて、紙面クリニックを受けアドバイスをいただいた。紙面づくりの基本的なことを学ぶことができ、これからの作成に向けての自信にもつながり、よりよい議会だよりの作成に向けて取り組んでいきたいと思う。研修会場には「議会だより」全国コンクール受賞号が掲示されていて、手に取ってみたいと思う「議会だより」が沢山あった。全国の町村議会では、コンクールへの目標を高く掲げ努力していることを知った。専門的な知識の必要性を強く感じ、大変有意義な視察だった。

以上